



# SPACE No.37

日本臨床心理身体運動学会会報第 37 号 2021 年 2 月 24 日

編集発行 日本臨床心理身体運動学会 会長 山中康裕

## 【第 8 期 新体制に移行して】

日本臨床心理身体運動学会の役員組織は、令和元年（2019 年）12 月から新体制となりました。今年度は学会大会がコロナの影響で延期となり、また、高橋新理事長が企画され 12 月開催予定であった【特別オンライン企画】も中止となってしまい、会員の皆様にはきちんとした紹介や挨拶が出来ていません。その代わりとして、この SPACE の紙面においてご挨拶させていただきたいと思います。

### 第 8 期役員組織

顧問：辻 浅夫 早稲田勝治

会長：山中康裕

副会長：中島登代子 中込四郎 鈴木 壯

理事長：高橋幸治

副理事長：名取琢自

常任理事：仁里文美 山 愛美 木村佐枝子 古谷 学（事務局担当）

理事：岸本寛史 前林清和 本間正行 森岡正芳 坂本明裕 廣瀬幸市 吉村 功 田口多恵

長岡由紀子 前田 章 松井幸太 中島郁子 齊藤 茂 山崎史恵 坂中尚哉（事務局担当）

幹事：前田 章 坂中尚哉（事務局担当）

監査：吉村 功 田口多恵

### 臨心身学会での学びー理事長に就任して

理事長 大阪府立大学 高橋 幸治

私は、2019 年 12 月に日本臨床心理身体運動学会の理事長に就任しました。本学会は、中島登代子先生と中込四郎先生と鈴木壯先生の三先生が、山中康裕先生をスーパーヴァイザーとして招き開催した SPACE（Sport psychologists, Psychiatrists, Athletes, Clinical psychologists, and Enlightenment）研究会が 1998 年に学会として発足した由来があります。私は、京都の鏡石で開催された SPACE 研究会で、初めて参加した覚えがあります。大広間の座敷に車座になって事例検討を 3 時間かけて行う。夜はバーベキューをして、さらに夜更けまで語り合う。そこらで気功や武術の実践が

あったりして、掌で目に見えない気の球を感じたり、投げ飛ばされたりしたり、初めて参加した私でも気兼ねする必要もなく自然に受け入れて頂いたという思い出があります。私は当時、関東で生活していましたが、帰ってきた翌日、身体中にパワーがみなぎるような感じ、堰が外されたような感じがして、午前中に普段めったに行かない公園のプールに泳ぎに行ったという不思議なことがありました。身体に影響がある会というものもそれまで体験したことのないものでした。

その後、研究会は学会として発足しました。発足会、第1回大会の準備、研修会の仕事、鹿屋での特別シンポジウムの準備、奈良女子大学での第8回大会の準備…、など若い時に体験した思い出や、最近ですと私の勤めている大阪府立大学で第18回大会を開催したこと、そこで山中先生と中島先生に「臨床の創造一個を鍛える」の語りをして頂いたこと、第22回大会で名取先生と二人でワークショップを行わせて頂いたこと等、思い出が数多くあります。事例発表も何度もさせて頂きました。会長の山中先生、前理事長の中島先生からも多大な影響を受けてきました。振り返ってみますと、私がこの学会で体験してきたもの、学んできたものというのは、学会の設立趣旨書にある「不明確で言語化の困難な、例えば身体・気・イメージ」だったように思います。思い出したエピソードがあります。2002年3月末に、私は研修会で事例発表をしました。鹿児島から関西に戻ってきたばかりで、鹿児島で出会ったケースを発表しました。私にとって思い出深い、クライアントさんに多くの大切なことを教わったケースでした。私は発表の前日から車の鍵を失くし、前日入りした会場に車を駐車したまま動かせない状態でした。発表している時に、指定討論者の山中先生にそのことをお話しすると、山中先生は「これが終わったら（鍵は）出てくるよ」と言われました。そして、研修会が終了しお別れする際にも、「もうすぐ出てくるよ」と言われました。「山中先生は、マリック（昔テレビで活躍した『超魔術師』）なのかな？」と半信半疑で私は聞いていました。しかし、その数分後に、何度も探したけどなかった、かつ入れた覚えのない小物入れから車の鍵が出てきたのでした。「なんじゃ、こりゃ？」とその不思議さを直接的に体験しました。そして様々なことを考えました。今では、私の周りには、沢山の小人（こびと）がいて、いい具合に物を隠してくれたり、出してくれるようになりました。よく物がなくなります。でも「小人は無意味なことはしない」と信じているようなところがあります。このように、身体で味わう、言語化困難な、論理的思考とは異なる、人の心の不思議さ、面白さ、を数多く本学会では体験、体感させてもらってきた、という思い出が私にはあります。頭で理解すること、理解して考えること、よりも、その時その場で自分に起こった、身体で味わったことに心が動いたり、あとで「どういうことだったんだろう？」と考えたり、そういう学びがたくさんあったように思います。そして、このようなことは貴重な体験として残ります。

願わくば、これからも日本臨床心理身体運動学会は、このような不思議さや興味深さを味わえる、明日からの活動に勇気やヒントがもらえる、人の全体性に働きかける学会でありたい、という思いがあります。私は、未熟者ですので、そのために多くの先生方のお力をお借りしたいと思っています。また、昨年から大きな影響力を発揮している新型コロナウイルスは、我々の生き方になんらかの警鐘を鳴らしている現象のようにも思います。このような中で、学会としてどのようなことをしていくのか、考えたいと思います。そして、会員の皆様とご一緒させていただき、実現させていきたい、と考えています。今後とも、どうぞよろしくお願い申し上げます。

新しい時代にむけて

副理事長 京都文教大学 名取琢自

2019年は本学会の歴史において、とても大きな節目となりました。学会のルーツであるSPA

CEの会から一貫して本会を束ね、支え、行くべき方向を身をもってお示しになってきた中島登代子理事長が後進に席を譲られたことは、少しずつこころの準備をしてきたことではありますが、言葉に尽くせないほどのインパクトをもたらす出来事でした。この会を文字通り育て、見守り、ご尽力いただいたことに感謝するとともに、ここからが学会として本会が存続し、発展していくことができるかどうかの正念場を迎えていることに身のすくむ思いがしております。

そのなかで、高橋幸治先生が新理事長の重責を引き受けて下さったことに、とても暖かな光明を得た実感があります。高橋先生の爽やかかつ暖かいお人柄に私はずいぶん助けられてきましたし、この会への献身にも感銘を受け続けています。私は副理事長を仰せつかりました。微力ながら、高橋新理事長とともに、学会の運営が円滑に維持できるよう、努力いたします。

大きな変化はありましたが、会長の山中康裕先生がこの会の誕生から現在まで、変わらずにご指導下さっていること、創設時からの「柱」である中込四郎先生、鈴木壯先生が副会長としてご尽力いただいているおかげで、変化への不安よりも伝統への信頼と安心感に守られています。そして幸いにも、中島登代子先生は副会長のお一人として、引き続き本学会を見守り、導いて下さることになりました。この恵まれた環境のなかで、心理、身体、運動の垣根を越え、全体を「こころ」現象として包括して探求する本会のユニークな活動が更に根づき、実りをもたらしてくれるよう、前に進んでいくことを願っています。

と、普通であればここまでご挨拶とするところですが、ご存じのように、私たちは2020年からもう一つ大きな「節目」に突入しました。新型コロナウイルスの地球規模の感染拡大に見舞われ、これまで当たり前とっていた人と人との距離や移動、対面コミュニケーションのあり方が突然かつ大規模に見直しを迫られ、交通手段の発展にあわせて進んで来た「グローバル」化への動きも物理的に抑制されることとなりました。本学会も講習会・研修会のみならず年次大会の開催も見合わせざるを得なくなり、「凍結」状況が続いています。準備に携わった方々、参加を心待ちにしておられた皆様にはどれほどくやしく残念な思いをされたか、ご心痛いかばかりかとお察しいたします。感染対策や医療的ケアの手段を整えばこの事態はやがて収束することと思われませんが、この未曾有の難局から何を学び伝え残していくかについてもしっかりと向き合っていかなければならないと感じています。

大きな和室で集まり、事例検討を通しての学びを重ねてきた本会のルーツが懐かしく思い出されます。そこに参加する機会に恵まれ、その空気を実感させてもらった一員として、お役に立てればうれしく思います。お力添え、どうぞよろしく願いいたします。

常任理事に就任して

京都先端科学大学 山 愛美

この度、常任理事の任を仰せつかさり、身の引き締まる思いです。振り返ると何かに導かれるようにして、河合隼雄先生と山中康裕先生の元で心理療法、深層心理学を学び始めました。私の「原点」は常にそこにあります。当時は、今日のように臨床心理士や公認心理師といった資格がある時代でもなく、ただひたすら自分自身が興味深いと思うこと、心惹かれることを求めて来て今日に至っているような気がします。もちろん心理療法に関しては、いろいろなことがありました。特にここ10年余年は、欧米に向けて自分の考えを発信したり、中国や台湾でワークショップやレクチャをする機会も増えてきました。そういった経験も踏まえ、心理療法について、ひいては生きるということについて、問い続けたいと思っております。どうぞよろしく願いいたします。

今期から広報担当として、学会誌 SPACE の発行に関わらせていただくことになりました。これまでも、理事や常任理事のお仕事はさせて頂いていましたが、学会や研修会の参加以外には、会議に出るくらいで、あまり直接的に学会の運営に携わっている、という感じではなかったのですが、このお仕事をすることになって、学会がより自分に近くなったように感じています。

この学会は、年次大会でも研修会でも、学会としては唯一、3時間のカンファレンスを行い、クライアントを深く理解するとともに、クライアントとともにあるということとはどのようなことであるのかを考えることのできる学会だと思います。それは学会となる前の SPACE 研究会の頃から変わっていません。

世の中が大きく変わっていく中で、ここは変わらずにあり続ける、というのは非常に難しいことで、なかなか出来ることではありません。でもそれは根本として何が大切であるのか、何を大切にしようとするのかに掛かっているのではないのでしょうか。先生方が大切にしてこられたものをこの学会において継承し続けていくことの一端を担えればと思っています。どうぞよろしくお願いいたします。

## 広報後記

SPACE の 37 号をお届けします。今回は新体制の紹介号となります。現在はまだコロナの只中ですが、それを乗り越え、また皆様と学会大会や研修会の場でお会いし、共に研鑽を深められればと思います。その時の中で、変わりゆくもの、守り続けるもの、残るもの、失われるもの、などさまざまなものをどう記憶するのか、どう記録していくのか、を考えて行ければと思います。

皆様の積極的な投稿をお待ちしています。

(仁里)

**SPACE No. 37**

**日本臨床心理身体運動学会 会報第 37 号**

**2021 年 2 月 24 日発行**

**日本臨床心理身体運動学会**

**会 長 山中康裕**

**編集責任 仁里文美**

**事務局 〒600-8449**

**京都市下京区新町通松原下ル富永町 107-1**

**株式会社 木立の文庫内**

**TEL : 075-585-5277**

**FAX : 075-320-3664**

**E-mail : office@rinsinsin.jp**